2026 年度 父母のための就職セミナー 開催報告

同志社大学商学部父母会 本会理事 伊藤 賢治

2026 年 10 月 12 日(祝日)、同志社大学室町キャンパス寒梅館ハーディーホールにおいて、「父母のための就職セミナー」を開催しました。

10 月とは思えない暑さとなりましたが、天候にも恵まれ、約 400 名の保護者の皆様にご参加いただきました。会場の都合により 3 連休最終日の開催となりましたが、関西近隣だけでなく全国各地からご来場いただき、就職活動に対する保護者の関心の高さをあらためて感じる機会となりました。



また当日は、同志社大学商学部樹徳会商学部同窓会から役員の皆様にもご来場いただき、創立 100 周年記念『樹徳会報』をご提供いただきました。商学部卒業生の活躍に触れる機会ともなり、学生たちの将来への期待を感じる一日となりました。

本セミナーは、変化の激しい就職活動の現状を保護者の皆様に知っていただき、お子様への適切な支援や関わり方について考えていただくことを目的に開催しました。

当日のプログラムは次のとおりです。

- 基調講演「親世代の常識が通じない最新トレンドとスケジュール」
  キャンパスサポートセンター 上江 吉春 氏
- 就職活動体験談
  卒業生 小関 沙弥 さん
  商学部 4 年次生 伊藤 秀明 さん、商学部 4 年次生 井村 美柚 さん
- 講演「同志社大学の就職状況とキャリア支援」同志社大学キャリアセンター 野田 宣彦 氏

親世代の常識が通じない就職活動

基調講演では、キャンパスサポートセンターの上江氏より、現在の就職活動を取り巻く環境についてご紹介いただきました。近年の就職活動は大きく早期化・長期化しており、多くの学生が 3 年次の春頃からインターンシップや企業研究を本格化させています。また、就職活動に関する用語やサービスも多様化しており、保護者世代の経験だけでは理解しづらい状況が生まれているとの説明がありました。



企業の初任給上昇や採用活動の変化など、最新の就職市場の動向についても紹介され、保護者には過去の経験を押し付けるのではなく、子どもが主体的に考え行動できるよう支援する「コーチングマインド」の重要性が語られました。

卒業生・在学生が語る就職活動の実体験

● 卒業生 小関 沙弥 さん



小関さんからは、ご自身の就職活動を振り返りながら、リアルな体験談をお話しいただきました。就職活動では玉石混交のさまざまな情報収集ツールや就職支援サービスがあるため、それぞれの特徴を理解しながら使い分けていたとのことでした。また、知名度の高い企業だけでなく魅力的な企業は数多く存在するため、３年次のインターンシップ参加時期には業界や企業を絞り込み過ぎず、幅広く参加したことが良い経験になったと振り返られました。

一方で、やみくもにセミナーやインターンシップに参加するのではなく、参加後には必ず感想や気づきを記録し、自分自身の企業研究や志望動機の整理に活用したことも紹介されました。また、大学主催の就職支援セミナーや各種プログラムについて、後になってからその充実ぶりに気付き、もっと積極的に活用しておけば良かったと感じたことも率直に語られました。小関さんはゼミに所属していなかったものの、就職活動において不利になることはなく、「何をしてきたかを自分の言葉で語れることが大切である」とのメッセージは印象に残りました。

● 商学部４年次生 伊藤 秀明 さん



伊藤さんは、「とりあえず大企業で働きたい」という漠然とした思いから就職活動をスタートされたそうです。しかし、当初は思うような結果が得られず、自己分析を進める中で、自分がどのような仕事にやりがいを感じ、何に価値を置くのかを言語化できるようになったことで、本当にワクワクできる仕事と出会い、希望する企業から内定を獲得することができたと語られました。また、就職活動の初期段階で業界や企業を絞り込み過ぎないことの重要性についてもお話しいただきました。

保護者との関わりについては、父親との対話を通じて自分の考えを整理することができた経験から、「親には社会人の先輩として接してほしい」とのメッセージがありました。さらに、友人との情報交換も重要ではあるものの、周囲に流され過ぎず、適度な距離感を保ちながら活動することが大切であると語られました。

● 商学部４年次生 井村 美柚 さん



井村さんからは、「就職活動は企業を選ぶ活動であると同時に、自分自身と向き合う機会であった」とのお話がありました。近年は就職活動の早期化が進んでいますが、「早く始めること」と「やみくもに手を広げること」は異なると強調されました。自己分析や選考対策を丁寧に行うことが何より重要であり、それによって自分自身の価値観や就職活動の軸を定めることができたと語られました。

「頑張れる環境が十分あるにもかかわらず挑戦しなかったことを後悔したくない」という思いが、最終的には企業選択の大きな判断基準となったことも紹介されました。「就職活動で最も重要なのは自己分析である」というメッセージは印象深いものでした。

同志社大学の就職状況とキャリア支援

キャリアセンターの野田氏からは、同志社大学の就職状況と支援体制についてご説明いただきました。
現在の就職活動を表すキーワードとして「早期化」「長期化」「多様化」「厳選採用」の 4 点が挙げられ、オンラインを活用した採用活動も引き続き定着しているとのことでした。
同志社大学ではメーカー、金融、サービス業をはじめ幅広い業界への就職実績があるほか、約 18%の学生が U ターン就職を選択していることも紹介されました。
キャリアセンターでは、業界研究、インターンシップ対策、個別相談など多様な支援を実施しており、特に 3 年次 2 月に開催される学内企業説明会は、企業との出会いの場として大きな役割を果たしています。
最後に、「親世代の就職活動とは大きく環境が異なることを理解しつつ、人生の先輩として学生を温かく支えてほしい」とのメッセージが送られました。



おわりに

本セミナーを通じて、現在の就職活動が親世代の経験とは大きく異なる一方で、学生自身が主体的に考え行動することの重要性を改めて学ぶ機会となりました。
保護者には、答えを与える存在ではなく、子どもの挑戦を支える伴走者としての役割が求められています。本セミナーで得られた学びが、各ご家庭における就職活動支援の一助となれば幸いです。
最後に、ご参加いただいた皆様、ご登壇いただいた講師・発表者の皆様、運営にご尽力いただいた役員の皆様、ならびに大学関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

